



# 2024年度 慶応義塾大学医学部

## 【 講 評 】

例年通り、大問4題で出題された。出題形式にも変化はなかった。昨年と同様、証明を必要とする記述問題の出題もなかった（グラフを図示させる問題はあった）。全体的に方針の立てやすい問題が多く、計算量も多くない。易しくなった昨年と同程度の難易度である。1次合格のためには、最低でも70%の得点が必要となるだろう。以下、大問ごとに特徴を述べる。

### 〔I〕小問集合 【易】

(1)は座標平面上の三角形の内心、外心の座標を求める問題であった。様々な解き方があるが、どの方針で解いてもかかる時間に大差はないだろう。(2)は楕円の接線と $x$ 、 $y$ 軸が作る三角形の面積の最小値を求める典型問題であった。(3)は三角関数の最大値と、面積の問題であった。今回のセットであれば、どれも落とせない問題である。

### 〔II〕確率 【易】

玉の取り出し方に関する確率を、漸化式を利用して求める典型問題で、丁寧な誘導があり非常に解きやすい問題であった。本学では頻出な内容であることを考慮すると、これは絶対に落とせない問題である。なお、確率に関しては2年連続で難易度の低い問題が出題されている。

### 〔III〕微分法・積分法（数学Ⅲ）／極限 【標準】

(1)は極値を求める問題、(2)はグラフを図示する問題である。(3)は(2)で図示したグラフと原点を通る直線が4点で交わる条件を求める問題で、連立して得られる方程式の解の個数で処理してもよいし、接線に注目して図形的に解いてもよい。(4)は部分分数分解で、これを用いて(5)の定積分の極限計算を行う。最後の計算はやや煩雑であるが、本学の試験としては標準的なものである。出来れば完答したい問題である。

### 〔IV〕ベクトル（空間座標）／数学Ⅲ積分法（体積）／2次関数（最大・最小）【標準】

空間座標内の四面体や六面体の断面積を求める問題であった。特に後半の六面体をイメージするのは容易ではない。設問の指示通り、交点の座標を地道に求め、断面のみに注目することが大切である。時間的な面もあり、完答できなかった人が多いのではないだろうか。

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>

## 【 解 答 】

[ I ]

- (1) (あ)  $\frac{\sqrt{3}}{2}$ , (い)  $\frac{\sqrt{3}}{6}$ , (う)  $\frac{5-\sqrt{7}}{2}$ , (え)  $\frac{5\sqrt{3}-\sqrt{21}}{6}$   
(2) (お)  $-\frac{2X}{3Y}$ , (か)  $\frac{\sqrt{6}}{2}$ , (き) 1, (く)  $\sqrt{6}$ ,  
(3) (け)  $\frac{4\sqrt{3}}{9}$ , (こ)  $\frac{2}{3}$

[ II ]

- (1) (あ)  $\frac{1}{2}$ , (い)  $\frac{1}{2}$ , (う)  $\frac{1}{6}$ , (え)  $\frac{2}{3}$ , (お) 0, (か)  $\frac{1}{2}$ ,  
(2) (き)  $\frac{1}{6}$ , (く)  $\frac{1}{2}$ , (け)  $\frac{3}{5}$ , (こ)  $\frac{2}{5}$ , (さ)  $\frac{1}{6}$ , (し)  $\frac{1}{5}$ , (す) 2, (せ)  $\frac{1}{3}$

[ III ]

- (1) (あ)  $-\frac{1}{\sqrt{3}}$ , (い)  $\frac{\sqrt{3}}{2}$ , (う)  $\frac{1}{\sqrt{3}}$ , (え)  $-\frac{\sqrt{3}}{2}$ ,  
(2) 解説参照  
(3) (お)  $m < -\frac{4}{3}$   
(4) (か)  $\frac{1}{6}$ , (き)  $-\frac{1}{3}$ , (く)  $\frac{1}{6}$   
(5) (け)  $\frac{1}{6} \log \left( \frac{3m+2+\sqrt{9m^2+12m}}{2} \right)$ , (こ) 1,

[ IV ]

- (1) (あ)  $5t-8$ , (い)  $-t$ , (う)  $3t-6$ , (え)  $2t-3$ , (お)  $t$ , (か)  $-t$ , (き)  $t$ , (く)  $t$   
(2) (け)  $-8t^2+24t-12$ , (こ) 8  
(3) (さ) ACD, (し) BCD, (す) ABD, (せ)  $\frac{3}{5}$ , (そ)  $\frac{4}{5}$   
(4) (た)  $\frac{11}{7}$ , (ち)  $\frac{44}{7}$

## 【 解 説 】

### [ I ]

(1) 三角形の外心は、各辺の垂直二等分線の交点である.

辺 OA の垂直二等分線の方程式は  $x = \frac{3}{2}$  ……①

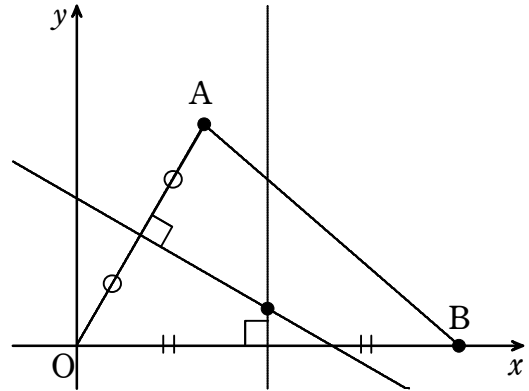
辺 OB の垂直二等分線の方程式は

$$y = -\frac{1}{\sqrt{3}}\left(x - \frac{1}{2}\right) + \frac{\sqrt{3}}{2} = -\frac{1}{\sqrt{3}}x + \frac{2\sqrt{3}}{3} \quad \dots\dots②$$

①, ② を連立させて,

$$y = -\frac{1}{\sqrt{3}} \cdot \frac{3}{2} + \frac{2\sqrt{3}}{3} = \frac{\sqrt{3}}{6}$$

よって、外心の座標は  $\left(\frac{3}{2}, \frac{\sqrt{3}}{6}\right)$  (あ, い)



三角形 OAB は  $y \geq 0$  の部分に存在し、辺 OA は  $x$  軸上にあるから、内接円の半径  $r$  が内心の  $y$  座標である.

$$OA = 3, \quad OB = \sqrt{1^2 + (\sqrt{3})^2} = 2, \quad AB = \sqrt{(3-1)^2 + (\sqrt{3})^2} = \sqrt{7}$$

であるから、内接円の半径  $r$  について、三角形 OAB の面積に注目すると、

$$\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot \sqrt{3} = \frac{1}{2} r (OA + OB + AB)$$

$$3\sqrt{3} = r(3 + 2 + \sqrt{7})$$

$$\therefore r = \frac{3\sqrt{3}}{5 + \sqrt{7}} = \frac{5\sqrt{3} - \sqrt{21}}{6}$$

また、内接円が辺 OA, OB, AB と接する点を P, Q, R とし、

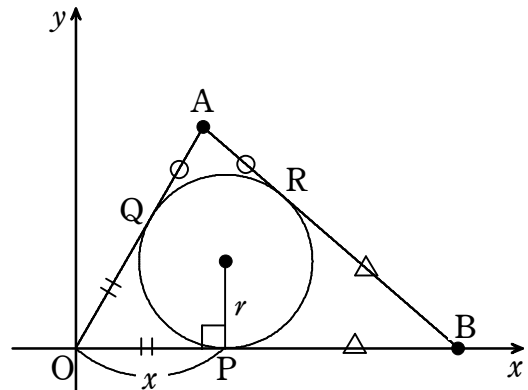
$OP = OQ = x$  とすると、

$$AQ = AR = 3 - x, \quad BP = BR = 2 - x$$

であるから、 $AB = AR + BR$  より、

$$\sqrt{7} = 3 - x + 2 - x \quad \therefore x = \frac{5 - \sqrt{7}}{2}$$

よって、内心の座標は  $\left(\frac{5 - \sqrt{7}}{2}, \frac{5\sqrt{3} - \sqrt{21}}{6}\right)$  (う, え)



**別解** 内接円の半径を求めた後は、次のように処理してもよい.

$B\left(\cos \frac{\pi}{3}, \sin \frac{\pi}{3}\right)$  であるから、 $\angle AOB = \frac{\pi}{3}$

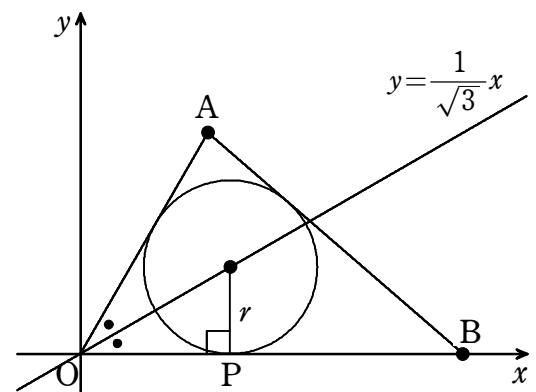
よって、 $\angle AOB$  の二等分線の方程式は  $y = \left(\tan \frac{\pi}{6}\right)x = \frac{1}{\sqrt{3}}x$

これにより、内心の座標は  $\left(t, \frac{t}{\sqrt{3}}\right)$  とおけるから、内接円の中心

の  $y$  座標が半径と等しくなることから、

$$\frac{t}{\sqrt{3}} = \frac{5\sqrt{3} - \sqrt{21}}{6} \quad \therefore t = \frac{5 - \sqrt{7}}{2}$$

よって、内心の座標は  $\left(\frac{5 - \sqrt{7}}{2}, \frac{5\sqrt{3} - \sqrt{21}}{6}\right)$  (う, え)



**別解** 中心の座標を文字でおき、各辺と接する条件から連立方程式を導いて解くこともできる。

内接円の中心を  $(a, b)$  とおくと、この点から

$$\text{直線 OA: } x=0,$$

$$\text{直線 OB: } y=\sqrt{3}x \Leftrightarrow \sqrt{3}x-y=0$$

$$\text{直線 AB: } y=-\frac{\sqrt{3}}{2}(x-3) \Leftrightarrow \sqrt{3}x+2y-3\sqrt{3}=0$$

までの距離が等しいことから、

$$|b| = \frac{|\sqrt{3}a-b|}{\sqrt{3+1}} = \frac{|\sqrt{3}a+2b-3\sqrt{3}|}{\sqrt{3+4}}$$

$$\therefore |b| = \frac{|\sqrt{3}a-b|}{2} = \frac{|\sqrt{3}a+2b-3\sqrt{3}|}{\sqrt{7}} \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

ここで、点  $(a, b)$  は  $y>0$  かつ  $\sqrt{3}x-y>0$ ,  $\sqrt{3}x+2y-3\sqrt{3}<0$  を満たす領域に存在するから、

$$b>0, \quad \sqrt{3}a-b>0, \quad \sqrt{3}a+2b-3\sqrt{3}<0$$

が成り立つ。

したがって、 $\textcircled{1}$  より

$$b = \frac{\sqrt{3}a-b}{2} = -\frac{\sqrt{3}a+2b-3\sqrt{3}}{\sqrt{7}} \Leftrightarrow \begin{cases} 2b = \sqrt{3}a - b \\ -\sqrt{7}b = \sqrt{3}a + 2b - 3\sqrt{3} \end{cases}$$
$$\Leftrightarrow \begin{cases} 3b = \sqrt{3}a \quad \dots\dots\textcircled{2} \\ -(2+\sqrt{7})b = \sqrt{3}a - 3\sqrt{3} \quad \dots\dots\textcircled{3} \end{cases}$$

$\textcircled{2}$  を  $\textcircled{3}$  に代入すると、

$$-(2+\sqrt{7})b = 3b - 3\sqrt{3}$$

$$(5+\sqrt{7})b = 3\sqrt{3} \quad \therefore b = \frac{3\sqrt{3}}{5+\sqrt{7}} = \frac{\sqrt{3}(5-\sqrt{7})}{6} = \frac{5\sqrt{3}-\sqrt{21}}{6}$$

$$\text{これを } \textcircled{2} \text{ に代入すると, } \frac{5\sqrt{3}-\sqrt{21}}{2} = \sqrt{3}a \quad \therefore a = \frac{5-\sqrt{7}}{2}$$

よって、内心の座標は  $\left(\frac{5-\sqrt{7}}{2}, \frac{5\sqrt{3}-\sqrt{21}}{6}\right)$  (5, ㊸)

(2) 点 $(X, Y)$ は第一象限の点であるから、 $X > 0, Y > 0$ である。

この点における接線 $l$ の方程式は  $\frac{X}{3}x + \frac{Y}{2}y = 1$  ……①  $\therefore y = -\frac{2X}{3Y}x + \frac{2}{Y}$

よって、接線 $l$ の傾きは  $-\frac{2X}{3Y}$  (お) である。

①において、

$$x=0 \text{ のとき } y=\frac{2}{Y}, \quad y=0 \text{ のとき } x=\frac{3}{X}$$

よって、 $P\left(\frac{3}{X}, 0\right), Q\left(0, \frac{2}{Y}\right)$  であるから、三角形 $OPQ$ の面積を $S$ とすると、

$$S = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{X} \cdot \frac{2}{Y} = \frac{3}{XY}$$

ここで、 $\frac{X^2}{2} + \frac{Y^2}{3} = 1$  において、相加・相乗平均の不等式により、

$$1 = \frac{X^2}{2} + \frac{Y^2}{3} \geq 2\sqrt{\frac{X^2}{2} \cdot \frac{Y^2}{3}} = \frac{\sqrt{6}}{3}XY$$

$X > 0, Y > 0$  より  $XY > 0$  であるから、 $\frac{1}{XY} \geq \frac{\sqrt{6}}{3}$

等号が成り立つのは

$$\frac{X^2}{3} = \frac{Y^2}{2} = \frac{1}{2} \text{ かつ } X > 0, Y > 0 \Leftrightarrow X = \frac{\sqrt{6}}{2}, Y = 1$$

したがって、

$$S = \frac{3}{XY} \geq 3 \cdot \frac{\sqrt{6}}{3} = \sqrt{6}$$

であるから、三角形 $OPQ$ の面積は $(X, Y) = \left(\frac{\sqrt{6}}{2}, 1\right)$  (か, き) のとき最小値 $\sqrt{6}$  (<) をとる。

**別解** 楕円上の点 $(X, Y)$ を三角関数でパラメータ表示してもよい。

点 $(X, Y)$ は第一象限にあり、 $\frac{X^2}{3} + \frac{Y^2}{2} = 1$  を満たすから、

$$\begin{cases} X = \sqrt{3} \cos \theta \\ Y = \sqrt{2} \sin \theta \end{cases} \quad \left(0 < \theta < \frac{\pi}{2}\right)$$

とおける。

これを用いると、 $S = \frac{3}{XY} = \frac{3}{\sqrt{6} \sin \theta \cos \theta} = \frac{\sqrt{6}}{\sin 2\theta}$

$0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき、 $0 < 2\theta < \pi$  であるから、 $S$ が最小となるのは、

$$\sin 2\theta = 1 \quad \therefore \theta = \frac{\pi}{4}$$

のときである。

このとき、 $X = \sqrt{3} \cos \frac{\pi}{4} = \frac{\sqrt{6}}{2}, Y = \sqrt{2} \sin \frac{\pi}{4} = 1$

以上より、三角形 $OPQ$ の面積は $(X, Y) = \left(\frac{\sqrt{6}}{2}, 1\right)$  (か, き) のとき最小値 $\sqrt{6}$  (<) をとる。

$$(3) \quad y = \cos x \sin 2x = 2 \sin x \cos^2 x = 2 \sin x (1 - \sin^2 x)$$

$\sin x = t$  とおくと,  $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  より  $0 \leq t \leq 1$  であり,

$$y = 2t(1 - t^2) = 2t - 2t^3$$

よって,  $\frac{dy}{dt} = 2 - 6t^2 = 2(1 - 3t^2)$

$0 \leq t \leq 1$  における  $y$  の増減は次のようになる.

$t$	0		$\frac{1}{\sqrt{3}}$		1
$\frac{dy}{dt}$		+	0	-	
$y$		↗		↘	

したがって,  $y$  は  $t = \frac{1}{\sqrt{3}}$  のとき最大となり, その最大値は

$$y = 2 \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} - 2 \left( \frac{1}{\sqrt{3}} \right)^3 = \frac{4}{9} \sqrt{3} \quad (\text{イ})$$

$0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$  のとき,  $y = \cos x \sin 2x \geq 0$

よって, この関数のグラフと  $x$  軸で囲まれてできる図形の面積は,

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x \sin 2x \, dx &= -2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} (-\sin x) \cos^2 x \, dx \\ &= -2 \left[ \frac{1}{3} \cos^3 x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{2}{3} \quad (\text{ロ}) \end{aligned}$$

[ II ]

袋1から赤玉, 袋2から白玉を取り出すことを,  $(R, W)$  などと表す.

(1)  $A \rightarrow A$  となるのは,  $(R, W)$  のときであるから,  $P(A \rightarrow A) = 1 \cdot \frac{2}{4} = \frac{1}{2}$  (あ),

$A \rightarrow B$  となるのは,  $(W, R)$  のときであるから,  $P(A \rightarrow B) = 1 \cdot \frac{2}{4} = \frac{1}{2}$  (い),

$B \rightarrow A$  となるのは,  $(W, R)$  のときであるから,  $P(B \rightarrow A) = \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{4} = \frac{1}{6}$  (う),

$B \rightarrow B$  となるのは,  $(W, W)$  または  $(R, R)$  のときであるから,  $P(B \rightarrow B) = \frac{1}{3} \cdot \frac{2}{4} + \frac{2}{3} \cdot \frac{3}{4} = \frac{2}{3}$  (え),

$C \rightarrow A$  が起こることはないから,  $P(C \rightarrow A) = 0$  (お),

$C \rightarrow B$  となるのは,  $(R, W)$  のときであるから,  $P(C \rightarrow B) = \frac{2}{3} \cdot \frac{3}{4} = \frac{1}{2}$  (か).

(2)  $n \geq 2$  のとき, 操作  $T$  を  $n$  回施し終えたとき, 状態  $A$  であるのは,

$n-1$  回施し終えたときに状態  $A$  で,  $A \rightarrow A$  が起こる, または  
 $n-1$  回施し終えたときに状態  $B$  で,  $B \rightarrow A$  が起こる, または  
 $n-1$  回施し終えたときに状態  $C$  で,  $C \rightarrow A$  が起こる,

のいずれかであり, 互いに排反であるから,

$$a_n = P(A \rightarrow A) \cdot a_{n-1} + P(B \rightarrow A) \cdot b_{n-1} + P(C \rightarrow A) \cdot c_{n-1}$$

$$\therefore a_n = \frac{1}{2} a_{n-1} + \frac{1}{6} b_{n-1} + 0 \cdot c_{n-1} \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

操作  $T$  を  $n$  回施し終えたとき, 状態  $B$  であるのは,

$n-1$  回施し終えたときに状態  $B$  で,  $B \rightarrow A$  が起こる, または  
 $n-1$  回施し終えたときに状態  $B$  で,  $B \rightarrow B$  が起こる, または  
 $n-1$  回施し終えたときに状態  $B$  で,  $C \rightarrow B$  が起こる,

のいずれかであり, 互いに排反であるから,

$$b_n = P(A \rightarrow B) \cdot a_{n-1} + P(B \rightarrow B) \cdot b_{n-1} + P(C \rightarrow B) \cdot c_{n-1}$$

$$\therefore b_n = \frac{1}{2} a_{n-1} + \frac{2}{3} b_{n-1} + \frac{1}{2} c_{n-1} \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

状態  $A, B, C$  以外の状態はないから,  $a_{n-1} + b_{n-1} + c_{n-1} = 1 \quad \therefore a_{n-1} + c_{n-1} = 1 - b_{n-1}$

これと②より,

$$b_n = \frac{1}{2}(a_{n-1} + c_{n-1}) + \frac{2}{3} b_{n-1} = \frac{1}{2}(1 - b_{n-1}) + \frac{2}{3} b_{n-1}$$

$$\therefore b_n = \frac{1}{6} b_{n-1} + \frac{1}{2} \quad (\text{き}, \text{く})$$

状態  $B$  から始めるから,  $b_0 = 1$  とすると, この漸化式は  $n=1$  のときも成り立つ.

漸化式を変形すると,  $b_n - \frac{3}{5} = \frac{1}{6} \left( b_{n-1} - \frac{3}{5} \right)$

$\left\{ b_n - \frac{3}{5} \right\}$  は等比数列であるから,

$$b_n - \frac{3}{5} = \left( b_0 - \frac{3}{5} \right) \cdot \left( \frac{1}{6} \right)^n = \frac{2}{5} \cdot \left( \frac{1}{6} \right)^n \quad \therefore b_n = \frac{3}{5} + \frac{2}{5} \left( \frac{1}{6} \right)^n \quad (\text{け}, \text{こ}, \text{き})$$

これを①に代入すると,

$$a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{6} \left\{ \frac{3}{5} + \frac{2}{5} \left( \frac{1}{6} \right)^n \right\} = \frac{1}{2}a_n + \frac{1}{10} + \frac{2}{5} \left( \frac{1}{6} \right)^{n+1}$$

状態  $B$  から始めるから,  $a_0 = 0$  とすると, これは  $n = 0$  のときも成り立つ.

両辺を  $\left( \frac{1}{2} \right)^{n+1}$  で割ると,  $d_n = \frac{a_n}{\left( \frac{1}{2} \right)^n}$  であるから,

$$d_{n+1} = \frac{\frac{1}{2}a_n}{\left( \frac{1}{2} \right)^{n+1}} + \frac{\frac{1}{10}}{\left( \frac{1}{2} \right)^{n+1}} + \frac{2}{5} \cdot \frac{\left( \frac{1}{6} \right)^{n+1}}{\left( \frac{1}{2} \right)^{n+1}} = d_n + \frac{1}{5} \cdot 2^n + \frac{2}{15} \cdot \left( \frac{1}{3} \right)^n$$

$\{d_n\}$  の階差数列の一般項は  $\frac{1}{5} \cdot 2^n + \frac{2}{15} \cdot \left( \frac{1}{3} \right)^n$  であるから,  $d_0 = \frac{a_0}{\left( \frac{1}{2} \right)^0} = 0$  より,

$$\begin{aligned} d_n &= d_0 + \sum_{k=0}^{n-1} \left\{ \frac{1}{5} \cdot 2^k + \frac{2}{15} \cdot \left( \frac{1}{3} \right)^k \right\} \\ &= 0 + \frac{1}{5} \cdot \frac{2^n - 1}{2 - 1} + \frac{2}{15} \cdot \frac{1 - \left( \frac{1}{3} \right)^n}{1 - \frac{1}{3}} \\ &= \frac{1}{5} (2^n - 1) + \frac{1}{5} \left\{ 1 - \left( \frac{1}{3} \right)^n \right\} \\ &= \frac{1}{5} \left\{ 2^n - \left( \frac{1}{3} \right)^n \right\} \quad (\text{し, す, せ}) \end{aligned}$$



[ III ]

(1)  $f(x) = \frac{1}{3x(x^2-1)}$  について,

$$f(-x) = \frac{1}{3(-x)\{(-x)^2-1\}} = -\frac{1}{3x(x^2-1)} = -f(x)$$

が成り立つから、関数  $f(x)$  は奇関数である。

以下、 $x > 0$ ,  $x \neq 1$  で考える。

$$f'(x) = -\frac{3x^2-1}{3x^2(x^2-1)^2} = -\frac{(\sqrt{3}x-1)(\sqrt{3}x+1)}{3x^2(x^2-1)^2}$$

$x > 0$ ,  $x \neq 1$  における  $f(x)$  の増減は次のようになる。

$x$	0	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	1	
$f'(x)$	/	+	0	- / -
$f(x)$	/	↗		↘ / ↘

このとき、 $f\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = \frac{1}{3 \cdot \frac{1}{\sqrt{3}} \left(\frac{1}{3} - 1\right)} = -\frac{\sqrt{3}}{2}$

よって、 $y = f(x)$  のグラフがが原点に関して対称であることに注意すると、

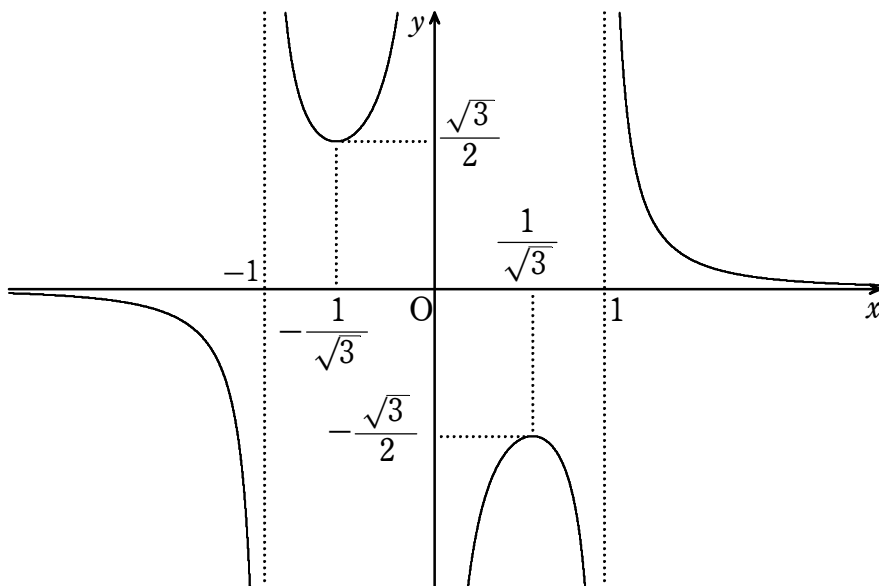
$x = -\frac{1}{\sqrt{3}}$  (あ) において極小値  $\frac{\sqrt{3}}{2}$  (い),  $x = \frac{1}{\sqrt{3}}$  (う) において極大値  $-\frac{\sqrt{3}}{2}$  (え)

をとる。

(2) (1) の増減表と、

$$\lim_{x \rightarrow +0} f(x) = -\infty, \quad \lim_{x \rightarrow 1-0} f(x) = -\infty, \quad \lim_{x \rightarrow 1+0} f(x) = \infty, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = 0$$

であることから、 $y = f(x)$  のグラフは下の図のようになる。



なお、漸近線は  $x = -1, 0, 1$ ,  $y = 0$  である。

(3)  $y=f(x)$  は奇関数であり、原点を通らないから、直線  $y=mx$  と曲線  $y=f(x)$  がちょうど4点で交わるのは、 $x>0$  の範囲で2点で交わる時である。

$m=0$  のとき、(2)のグラフより共有点を持たないから、以下  $m \neq 0$  とする。

2式を連立させると  $mx=f(x)=\frac{1}{3x(x^2-1)}$

$$3mx^2(x^2-1)=1 \quad \therefore 3mx^4-3mx^2-1=0 \quad \dots\dots\textcircled{1}$$

この方程式が  $x>0$  の範囲で異なる2つの実数解をもつときを考える。

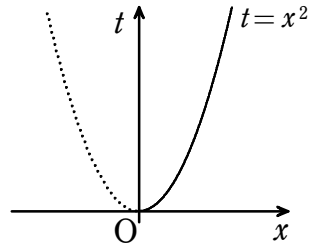
$x^2=t$  とおくと、  $3mt^2-3mt-1=0 \quad \dots\dots\textcircled{2}$

$x>0$  より、1つの  $t$  に対する  $x$  の個数は、

$t>0$  のとき1個、

$t \leq 0$  のとき0個

であるから、 $t$  の方程式②が  $t>0$  の範囲で異なる2つの実数解をもつときを考えればよい。



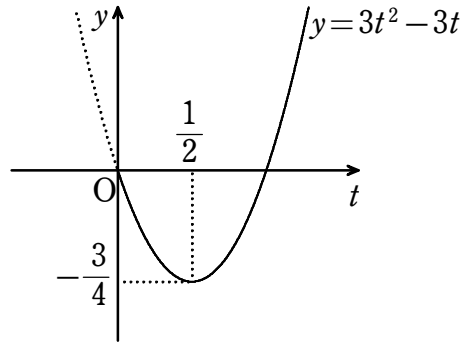
②より  $m(3t^2-3t)=1$

$$\therefore \frac{1}{m}=3t^2-3t=3\left(t-\frac{1}{2}\right)^2-\frac{3}{4}$$

直線  $y=\frac{1}{m}$  と放物線  $y=3t^2-3t$  が  $t>0$  の範囲で

2つの共有点をもつときを考えると、

$$-\frac{3}{4} < \frac{1}{m} < 0 \quad \therefore m < -\frac{4}{3} \quad (\text{お})$$



$$\begin{aligned} (4) \quad f(x) &= \frac{1}{3x(x^2-1)} = \frac{1}{3(x-1)x(x+1)} \\ &= \frac{1}{6} \left\{ \frac{1}{(x-1)x} - \frac{1}{x(x+1)} \right\} \\ &= \frac{1}{6} \left\{ \frac{1}{x-1} - \frac{1}{x} - \left( \frac{1}{x} - \frac{1}{x+1} \right) \right\} \\ &= \frac{1}{6} \left( \frac{1}{x-1} - \frac{2}{x} + \frac{1}{x+1} \right) \end{aligned}$$

よって、  $a = \frac{1}{6} \text{ (か)}$ ,  $b = -\frac{1}{3} \text{ (き)}$ ,  $c = \frac{1}{6} \text{ (く)}$

(5)  $x(m)=p$  とする。(4)の結果より、

$$\begin{aligned} \int_p^T f(x) dx &= \frac{1}{6} \int_p^T \left( \frac{1}{x-1} - \frac{2}{x} + \frac{1}{x+1} \right) dx \\ &= \frac{1}{6} \left[ \log|x-1| - 2\log|x| + \log|x+1| \right]_p^T \\ &= \frac{1}{6} \left[ \log \left| \frac{x^2-1}{x^2} \right| \right]_p^T \\ &= \frac{1}{6} \left\{ \log \left| \frac{T^2-1}{T^2} \right| - \log \left| \frac{p^2-1}{p^2} \right| \right\} \\ &= \frac{1}{6} \left\{ \log \left| \frac{T^2-1}{T^2} \right| + \log \left| \frac{p^2}{p^2-1} \right| \right\} \end{aligned}$$

このとき,

$$\lim_{T \rightarrow \infty} \log \left| \frac{T^2 - 1}{T^2} \right| = \lim_{T \rightarrow \infty} \log \left| 1 - \frac{1}{T^2} \right| = \log 1 = 0$$

であるから,

$$A(m) = \lim_{T \rightarrow \infty} \int_p^T f(x) dx = \frac{1}{6} \log \left| \frac{p^2}{p^2 - 1} \right|$$

ここで,  $p$  は  $mx = f(x)$  の解であるから, ① を満たすので,

$$3mp^4 - 3mp^2 - 1 = 0 \quad \therefore p^2 = \frac{3m \pm \sqrt{9m^2 + 12m}}{6m}$$

$$p^2 > 0 \text{ であるから, } p^2 = \frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{6m}$$

$$\begin{aligned} \text{よって, } \frac{p^2}{p^2 - 1} &= \frac{\frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{6m}}{\frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{6m} - 1} = \frac{\sqrt{9m^2 + 12m} + 3m}{\sqrt{9m^2 + 12m} - 3m} \\ &= \frac{(\sqrt{9m^2 + 12m} + 3m)^2}{9m^2 + 12m - 9m^2} = \frac{3m + 2 + \sqrt{9m^2 + 12m}}{2} \end{aligned}$$

以上より,  $m > 0$  であるから,

$$A(m) = \frac{1}{6} \log \left| \frac{3m + 2 + \sqrt{9m^2 + 12m}}{2} \right| = \frac{1}{6} \log \left( \frac{3m + 2 + \sqrt{9m^2 + 12m}}{2} \right) \quad (\text{†})$$

$O(0, 0)$ ,  $P(p, mp)$ ,  $Q(p, 0)$  であるから, 三角形  $OPQ$  の面積は

$$B(m) = \frac{1}{2} \cdot p \cdot mp = \frac{m}{2} p^2 = \frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{12}$$

したがって,

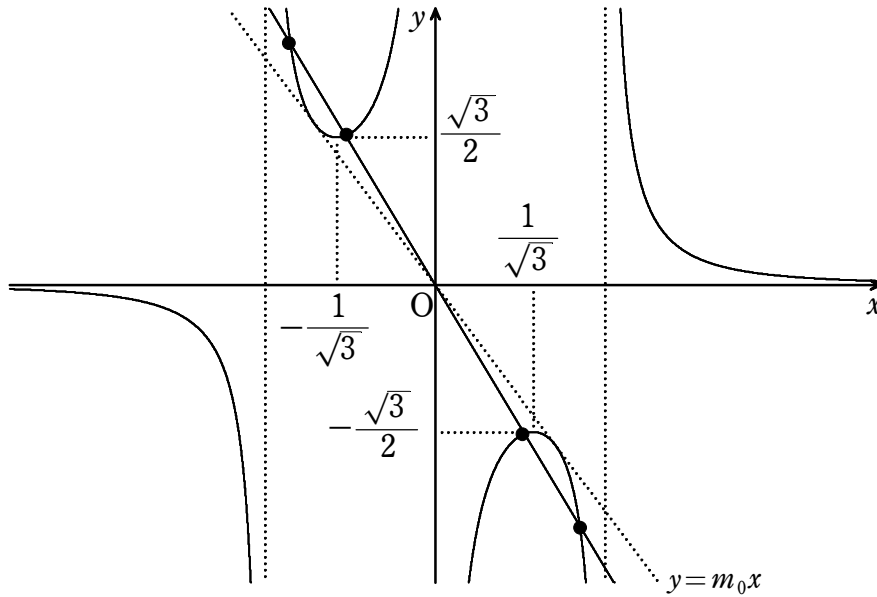
$$\lim_{m \rightarrow +0} \frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{12} = 0, \quad \lim_{x \rightarrow +0} \frac{\log(1+x)}{x} = 1$$

であることから,

$$\begin{aligned} \lim_{m \rightarrow +0} \frac{A(m)}{B(m)} &= \lim_{m \rightarrow +0} \frac{\frac{1}{6} \log \left( \frac{3m + 2 + \sqrt{9m^2 + 12m}}{2} \right)}{\frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{12}} \\ &= \lim_{m \rightarrow +0} \frac{\log \left( 1 + \frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{2} \right)}{\frac{3m + \sqrt{9m^2 + 12m}}{2}} = 1 \quad (\text{‡}) \end{aligned}$$

別解  $y=f(x)$  と  $y=mx$  が接するとき注目して解くこともできる.

直線  $y=mx$  が  $y=f(x)$  の  $0 < x < 1$  の部分と接するときの傾きを  $m_0$  とすると,  $y=f(x)$  は奇関数, すなわちグラフが原点に関して対称であること, および  $0 < x < 1$  で  $y=f(x)$  は上に凸であることから, ちょうど4点で交わるのは  $m < m_0$  のときである. 以下, この  $m_0$  を求める.



グラフ上の点  $(t, f(t))$  ( $0 < t < 1$ ) における接線の方程式は,  $y=f'(t)(x-t)+f(t)$

これが原点を通るとき,  $-tf'(t)+f(t)=0$

$$-t \cdot \left\{ -\frac{3t^2-1}{3t^2(t^2-1)^2} \right\} + \frac{1}{3t(t^2-1)} = 0$$

$$3t^2-1+t^2-1=0 \quad \therefore t^2=\frac{1}{2}$$

$0 < t < 1$  であるから,  $t=\frac{1}{\sqrt{2}}$

$$\text{したがって, } m_0=f'\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)=-\frac{3 \cdot \frac{1}{2}-1}{3 \cdot \frac{1}{2} \left(\frac{1}{2}-1\right)^2}=-\frac{4}{3}$$

以上より, 直線  $y=mx$  と曲線  $y=f(x)$  がちょうど4点で交わるのは,  $m < -\frac{4}{3}$  (\*)

別解 (4) は恒等式処理を行ってもよい.

$$\begin{aligned} f(x) &= \frac{a}{x-1} + \frac{b}{x} + \frac{c}{x+1} = \frac{ax(x+1)+b(x-1)(x+1)+cx(x-1)}{x(x^2-1)} \\ &= \frac{(a+b+c)x^2+(a-c)x-b}{x(x^2-1)} \end{aligned}$$

$x$  の恒等式であるから, 左辺と係数を比較すると,

$$\begin{cases} a+b+c=0 \\ a-c=0 \\ b=-\frac{1}{3} \end{cases} \quad \therefore a=\frac{1}{6} \text{ (か)}, b=-\frac{1}{3} \text{ (き)}, c=\frac{1}{6} \text{ (く)}$$

## [IV]

(1) 条件から  $S_t$  の4つの頂点  $W, X, Y, Z$  について、  
 辺  $AB$  上の点が  $W$ , 辺  $AC$  上の点が  $X$ , 辺  $OB$  上の点が  $Y$ , 辺  $OC$  上の点が  $Z$  である。

$z$  座標の比に注目すると,  $AW : WB = t - 1 : 2 - t$   
 であるから,

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OW} &= \frac{(2-t)\overrightarrow{OA} + (t-1)\overrightarrow{OB}}{(t-1) + (2-t)} \\ &= (2-t)(-3, -1, 1) + (t-1)(2, -2, 2) \\ &= (5t-8, -t, t)\end{aligned}$$

同様に,  $X, Y, Z$  について考えると,

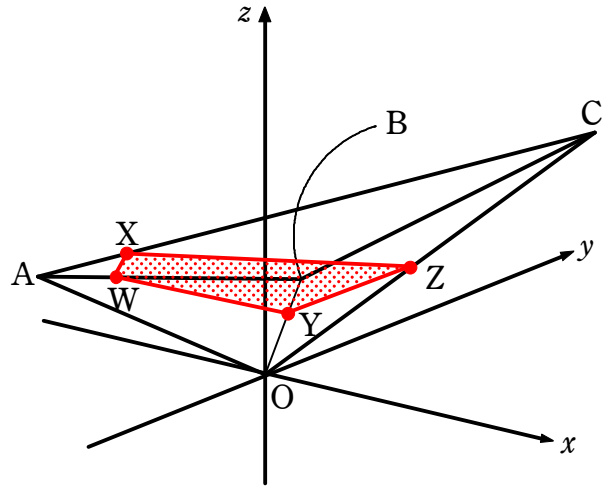
$$\begin{aligned}\overrightarrow{OX} &= \frac{(3-t)\overrightarrow{OA} + (t-1)\overrightarrow{OC}}{(t-1) + (3-t)} \\ &= \frac{3-t}{2}(-3, -1, 1) + \frac{t-1}{2}(3, 3, 3) \\ &= (3t-6, 2t-3, t)\end{aligned}$$

$$\overrightarrow{OY} = \frac{t}{2}\overrightarrow{OB} = \frac{t}{2}(2, -2, 2) = (t, -t, t),$$

$$\overrightarrow{OZ} = \frac{t}{3}\overrightarrow{OC} = \frac{t}{3}(3, 3, 3) = (t, t, t)$$

であるから,

$$W(5t-8, -t, 0)_{(あ, い)}, X(3t-6, 2t-3, t)_{(う, え)}, Y(t, -t, t)_{(お, か)}, Z(t, t, t)_{(き, く)}$$



(2)  $W, X, Y, Z$  はいずれも平面  $z=t$  上の点であり,  
 $Y, Z$  の  $x$  座標は等しく,  $Y, W$  の  $y$  座標が等しいこと  
 から, これを図示すると右図のようになる。

ただし,  $1 < t < 2$  であるから,  $Y$  と  $X$  の  $x$  座標について,

$$t - (3t-6) = 6 - 2t = 2(3-t) > 0$$

$Y$  と  $W$  の  $x$  座標について,

$$t - (5t-8) = 4(2-t) > 0$$

$X$  と  $W$  の  $y$  座標について,

$$2t-3 - (-t) = 3t-3 = 3(t-1) > 0$$

である。

したがって,  $S_t$  の面積は三角形  $XYW$  と三角形  $XYZ$  の面積の和であるから,

$$\begin{aligned}A(t) &= \frac{1}{2} \cdot 4(2-t) \cdot 3(t-1) + \frac{1}{2} \cdot 2t \cdot 2(3-t) \\ &= -8t^2 + 24t - 12_{(け)}\end{aligned}$$

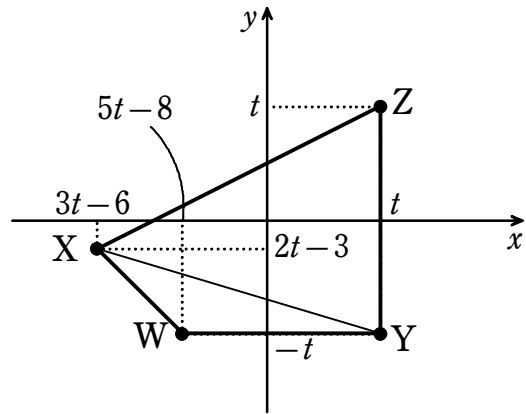
四面体  $OABC$  の体積について,

$0 \leq z \leq 1$  の部分は, 底面積  $A(1) = -8 + 24 - 12 = 4$ , 高さ 1 の四面体,

$2 \leq z \leq 3$  の部分は, 底面積  $A(2) = -32 + 48 - 12 = 4$ , 高さ 1 の四面体

であることに注意すると,

$$\begin{aligned}V &= \frac{1}{3} \cdot 4 \cdot 1 + \int_1^2 A(t) dt + \frac{1}{3} \cdot 4 \cdot 1 = \frac{8}{3} + \int_1^2 (-8t^2 + 24t - 12) dt \\ &= \frac{8}{3} + \left[ -\frac{8}{3}t^3 + 12t^2 - 12t \right]_1^2 = \frac{8}{3} - \frac{56}{3} + 24 = 8_{(こ)}\end{aligned}$$



(3) 5点O, A, B, C, Dを頂点とする六面体の3つの面は、三角形OAB, OBC, OACであるから、残りの3つの面はDと3点A, B, Cを結んでできる、ACD, BCD, ABD<sub>(き, し, す)</sub>である。

$\overrightarrow{AB}=(5, -1, 1)$ ,  $\overrightarrow{AC}=(6, 4, 2)$ であるから、

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OE} &= \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AE} = \overrightarrow{OA} + u\overrightarrow{AB} + v\overrightarrow{AC} \\ &= (-3, -1, 1) + u(5, -1, 1) + v(6, 4, 2) \\ &= (5u + 6v - 3, -u + 4v + 1, u + 2v + 1) \quad \dots\dots①\end{aligned}$$

また、点Eは線分OD上にあるから、

$$\overrightarrow{OE} = k\overrightarrow{OD} = (6k, 2k, 4k) \quad \dots\dots②$$

となる実数 $k$  ( $0 < k < 1$ )が存在する。

これらの成分を比較すると、

$$\begin{cases} 5u + 6v - 3 = 6k & \dots\dots③ \\ -u + 4v + 1 = 2k & \dots\dots④ \\ u + 2v + 1 = 4k & \dots\dots⑤ \end{cases}$$

$$③ - ④ \times 3 \text{ より } 8u - 6v = 0 \quad \dots\dots⑥$$

$$⑤ - ④ \times 2 \text{ より } 3u - 6v + 3 = 0 \quad \dots\dots⑦$$

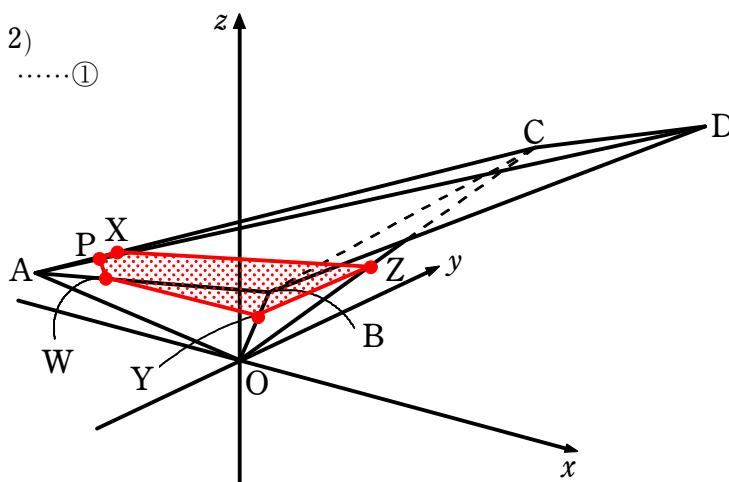
$$⑥ - ⑦ \text{ より } 5u - 3 = 0 \quad \therefore u = \frac{3}{5}$$

$$⑥ \text{ に代入すると, } v = \frac{4}{3} \cdot \frac{3}{5} = \frac{4}{5}$$

$$\text{これらを⑤に代入すると } \frac{3}{5} + \frac{8}{5} + 1 = 4k \quad \therefore k = \frac{4}{5} \text{ (これは } 0 < k < 1 \text{ を満たす)}$$

$$\text{したがって, } u = \frac{3}{5} \text{ (㉞), } v = \frac{4}{5} \text{ (㉟)}$$

このとき、 $u + v = \frac{3}{5} + \frac{4}{5} = \frac{7}{5} > 1$ であるから、点Eは六面体の外の点である。



(4)  $1 < t < 2$  のとき、平面  $z = t$  と辺 AD の交点を P とすると、 $AP : PD = t - 1 : 4 - t$  であるから、

$$\begin{aligned}\overrightarrow{OP} &= \frac{(4-t)\overrightarrow{OA} + (t-1)\overrightarrow{OD}}{(t-1) + (4-t)} = \frac{4-t}{3}(-3, -1, 1) + \frac{t-1}{3}(6, 2, 4) \\ &= (3t - 6, t - 2, t)\end{aligned}$$

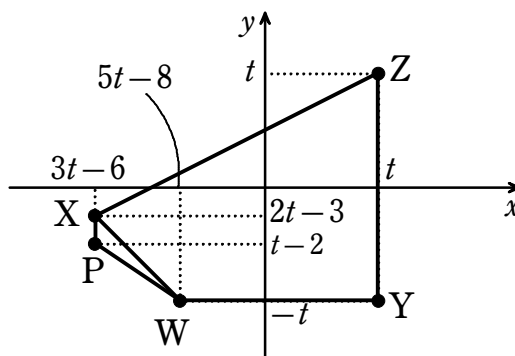
点 X, P の  $x$  座標は等しく、 $y$  座標について

$$2t - 3 - (t - 2) = t - 1 > 0,$$

また、点 P, W の  $y$  座標について、

$$t - 2 - (-t) = 2(t - 1) > 0$$

よって、(3) の六面体を平面  $z = t$  で切った切り口は、右図の五角形となる。



この図形の面積は、(2) の  $S_t$  の面積  $A(t)$  と三角形 PXW の面積の和であるから、

$$\begin{aligned}U(t) &= A(t) + \frac{1}{2} \cdot (t-1) \cdot \{(5t-8) - (3t-6)\} = -8t^2 + 24t - 12 + (t-1)^2 \\ &= -7t^2 + 22t - 11 = -7\left(t - \frac{11}{7}\right)^2 + \frac{44}{7}\end{aligned}$$

$1 < t < 2$  であるから、 $U(t)$  は  $t = \frac{11}{7}$  (㊦) のとき、最大値  $\frac{44}{7}$  (㊧) をとる。

**別解** (2)の体積は、スカラー三重積を覚えていれば簡単に求めることができる。

求める体積 $V$ は、 $\overrightarrow{OA}$ ,  $\overrightarrow{OB}$ ,  $\overrightarrow{OC}$ を3辺とする四面体の体積であるから、

$$V = \frac{1}{6} |(\overrightarrow{OA} \times \overrightarrow{OB}) \cdot \overrightarrow{OC}|$$

となる。

$\overrightarrow{OA} = (-3, -1, 1)$ ,  $\overrightarrow{OB} = (2, -2, 2)$ について、

$$\overrightarrow{OA} \times \overrightarrow{OB} = (-2 + 2, -(-6 - 2), 6 + 2) = (0, 8, 8)$$

よって、

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{6} |(0, 8, 8) \cdot (3, 3, 3)| \\ &= 4 |(0, 1, 1) \cdot (1, 1, 1)| \\ &= 4 \cdot |2| = 8 \end{aligned}$$